

## 平成 29 年度 経済観光部所管事業評価の概要

※個別事業の評価の詳細については、各委員評価シート参照。

### ○実施方法について

今回の事業評価は、事業評価シートによる評価とし、各基本的施策ごとに、A～D の 4 段階で評価を実施。

基本的施策	A	B	C	D
(1)中小企業者の経営の革新及び創業の促進を図ること	1	6	0	0
(2)中小企業の経営基盤の強化を図ること	0	7	0	0
(3)中小企業者の資金調達の円滑化を図ること	1	3	3	0
(4)経済的社会的環境の著しい変化への中小企業者の適応の円滑化を図ること	1	2	4	0
(5)観光需要の創出により、市内消費の拡大を図ること	4	4	0	0
(6)商店街の振興を図ること	1	5	2	0
(7)前各号に掲げるもののほか、中小企業の振興のため必要と認められる事項☆	1	6	0	0

☆項目(1,2,3,4,7)について評価無し 1 名。

### ○各基本的施策ごとの評価

#### (1) 中小企業者の経営の革新及び創業の促進を図ること

- ・新規事業「なはし創業・就職スタートアップサロン（仮）運営事業」及び「新商品開発支援事業」の実施により那覇市内中小企業の活性化が図られることを期待します。事業の告知と効果的な運営が必要であり、審議会において進捗状況を報告して頂きたい。
- ・継続事業の「誘致活動サポート事業」については、現在沖縄県内では人手不足が課題となっていることから、県内の労働事情も把握しながら対象企業の選別を行いながら進める必要がある。
- ・海外展開支援事業については、対象企業の経営状況や生産体制等も考慮しながら対象市場を絞って支援するなどの工夫が必要。JETRO など関係機関との連携も図って頂きたい。特に大交易会参加企業を早期に選定し販路拡大につなげて欲しい。
- ・新規事業もあり評価できる。
- ・「なはし創業・就職スタートアップサロン」の設置を高く評価します。
- ・メニュー、内容とも評価出来る。
- ・市内中小企業の PR や販路拡大の機会を、様々な角度から支援していることは評価できますが、支援事業者数が目標に達していないことや前年度より減少していることが気になります。事業の周知不足など考えられる原因を見つけ対処する必要があります。

ると思います。

- ・本年度より新商品（新サービス）開発支援を行うとのことですので、この事業が多くの事業所のモチベーション向上につながるように、対策を考える必要があるとおもいます。
- ・誘致活動サポート事業に関しては、過去2年間の調査を踏まえ形にする大切な時期に移行しているようですので、今後の動向に期待しています。
- ・本年度より開始する「なはし創業・就職スタートアップサロン」は、これまで入社させる「就社」に重点を置いていた支援に、「創業」という個々の特性や環境に合わせた職業選択が可能になる本来の「就職」に焦点をあてた支援が実現できることを喜ばしく思います。
- ・企業誘致活動や海外向け販路拡大事業など、那覇市としての産業力強化の姿勢がみられ、また一定の効果をあげていると評価できる。
- ・従来のを超えた創業支援や新商品開発の支援については、県内外自治体が力を入れているところであり、那覇市としても新規にその方針が示された点が評価される。
- ・物産展や産業まつり、販路拡大支援等の売上増・営業支援はある程度評価できる
- ・積極的に経営革新を支援する策がなく政策的に新しい・革新的な経営を支援しているようには考えられない。

## (2) 中小企業の経営基盤の強化を図ること

- ・那覇市内中小企業の経営実態を把握するための調査事業が計上されたことを評価する。同調査により経営状態に応じた施策見直しに繋げて頂きたい。
  - ・今年度計上している事業については、事業の統合など事業数を整理したうえで内容の強化に繋げて頂きたい。
  - ・個別事業については伝統工芸後継者育成事業に関して、現状と見通しを明らかにし強化策について関係機関や沖縄県立芸術大学との連携を図る必要がある。
  - ・事業数も多く評価できる。
- 「那覇市ITインキュベーション施設運営事業」と「那覇市IT創造館基盤整備事業」は那覇市の情報通信産業の発展に大きく寄与するものと考えている。
- ・人手不足が強まるなか、人材確保に関する支援策がない。人材育成に注力してほしい。
  - ・メニュー、内容とも評価出来る。中小企業経営実態調査の実施は意義深い。業種別、規模別等様々な角度から研究可能な調査であって欲しい。質問項目設計についても万全であることを期待する。
  - ・ITや観光、文化といった業界に偏りがみられることが気になるところです。
  - ・本年度より経営実態調査が始まるとのことですので、今後、幅広い業種、事業所の支援が実現できるものと期待しております。
  - ・なは産業支援センター育成事業における地域企業参加型のイベントについて、実施前の周知広報があまりされていなかったことが残念だと思いました。実施後ニュース等で取り上げられてはありましたが、内容やパネリストもユニークな企画でしたので、収容人員の課題もあるかと思いますがクローズにすることなく普く発信する

ことが、事業理解、早期人材育成への理解につながると思います。

- ・市民の銘苅庁舎跡地が産業支援センターとして稼働していることも、まだまだ知られていないところですので、市民や地元企業が参加できるイベントを活用して、センターの周知広報につながるよう更なる工夫をお願いしたいと思います。
- ・伝統工芸に関する事業が複数挙げられており、那覇市の強い支援姿勢が感じられる。
- ・那覇市 IT 創造館やなは産業支援センターに関する予算配分が引き続き厚くなっており、創業期支援に関する意識の高さがうかがえる。
- ・年々充実してきている感あるが、伝統工芸やIT関連に少し偏った支援策になっていないか？もっと幅広い業種の支援策を検討すべきである。

### (3) 中小企業者の資金調達の円滑化を図ること

- ・基本的施策に関する自己評価では、施策に関して件数と金額増加を基に「概ね評価出来る」としているが、審議会答申では「フォローアップ施策検討」の必要性を強調している。昨年度の事業に関するの取り組み内容と今年度事業方針を明確に示して頂きたい。
- ・融資件数、金額ともに対前年度比微増となっており、評価できる。
- ・中小企業にとって資金調達は大きな課題であるが、金融行政の変化や資金調達手段の多様化の中で、那覇市独自の制度を検討してほしい。
- ・一定の効果を上げていると思われる。
- ・小口資金融資事業は、中小企業にとってとても有益な支援だと思います。しいてコメントするのであれば、前年度の答申にもありましたように、融資先への専門家によるフォローが必要だと思います。こちらも本年度から始まる経営実態調査の中で、本事業の活用の有無や事業改善率などもヒアリングできると、本事業の有効性が客観的に検証できると思われまます。
- ・那覇市の制度としての特徴が把握できない。信用力不足の中小企業を支援するという姿勢は評価される。
- ・経営の革新や創業、経営基盤強化、経営力向上等のためには、運転資金や設備投資資金等が必要であり、そのための資金調達手段は現在では多岐にわたっている。「積極的な経営」を支援する資金調達の円滑化を図る策がない  
(現在の「小口資金融資事業」は先行投資的意味合いが低い事業ある)

### (4) 経済的社会的環境の著しい変化への中小企業者の適応の円滑化を図ること

- ・新規事業を創設したことは評価するが、審議会で議論のあった「経済的社会的環境の著しい変化」に対する認識を確認したい。ランドマーク創造事業は観光需要創出(5)が妥当ではないか。今年度実施の実態調査を踏まえて必要な事業を検討して頂きたい。
- ・事業数が少ない。「物語性のあるランドマーク創造事業」は、那覇市の観光資源の魅力向上に大きく寄与するものと期待している。
- ・人口知能、IoT、シェアリングエコノミー等、ビジネス環境は急激な変化の中にあるという認識が重要。
- ・ランドマーク創造事業に期待したい。クルーズ船乗客と県内事業者のインターフェ

- イスとして強く認識し、沖縄の魅力アピール、乗客の消費拡大に繋げて頂きたい。
- ・本項に新たに3事業が追加されたこと、今後の動向に期待します。社会的環境の著しい変化に翻弄される中小企業の現状と、どういう支援を有効的かを見据えたヒアリング調査「市内中小企業経営実態調査」事業が新たに生まれた事は、一方向的な支援に留めないという那覇市の意欲が感じられます。サンプリング企業の選定やヒアリング項目の熟考が大切だと思います。
  - ・積極的に支援すべき分野であると考えられるが、そもそも予算項目が無く、施策が手薄な印象を受ける。さらなる充実強化が求められるのではないかと。
  - ・経済的社会的環境の著しい変化へ対応しようとしている中小企業で難しいのは、成熟型産業から衰退型産業への変遷をたどる業界である。それは第二創業や業態開発が必要な企業であり、そのような企業への支援策が足りない。(※H29の取り組みはある程度評価できる)

#### **(5) 観光需要の創出により、市内消費の拡大を図ること**

- ・観光客誘致及び受入に関して幅広く事業が計上されていることを評価する。新規事業の民泊実態調査の早期実施及び対策をお願いしたい。
- ・観光関連事業は事業数がかなり多くなっているため、事業内容を検証のうえで統合を図る必要がある。
- ・今後は、交通渋滞対策や白タク行為対策など事業とは別に「利害関係機関との調整行為」が重要になります。職員及び那覇市観光協会職員の能力強化を図るための研修制度なども必要である。
- ・事業数も多く、内容も多岐わたり高く評価できる。民泊は旅館業法上の許可が必要であるが、無許可も多く社会問題になっている。「那覇市民泊施設実態調査事業」でその実態を把握することは、誠に時宜を得たものである。
- ・賑わいの創出など全体的に評価できるが、市内消費の拡大につながっているのか不明。
- ・概ね良い内容であると思われる。
- ・本項目の事業は、どれも那覇市内外に周知されており有益な事業ばかりです。敢えてコメントをするのであれば、公衆無線 LAN に関して、観光に訪れた方々から良い感触のコメントをいただいたことが少ないです。海外観光客の方々に対しては言葉の壁を越えて沖縄を楽しんでいただくためには無線 LAN、Wifi 環境の整備は必須だと思います。本事業の進めながことで、環境が良くなり顧客満足度が高まることを願います。
- ・那覇市の3大祭、沖縄国際映画祭、プロ野球キャンプなど集客性・話題性に優れたイベントを多くかかえており、県都にふさわしい事業の継続実施は重要と考えられる。
- ・強引な客引きへの対応など、行政でしか行えないことに積極的に取り組む姿勢が見られ、観光客を迎えるための環境整備という点で評価できる。
- ・観光関連支援策が充実してきていることは高く評価できる。

## (6) 商店街の振興を図ること

- ・商店街の活性化が課題となっているが、実態が十分把握されていない。那覇市民だけでなく県民全体にとっての価値を高める必要がある。
- ・個別事業に関しては「頑張るマチグァー支援事業」の内容と効果検証をお願いしたい。
- ・新規事業の「国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業」の進め方については、商店街関係者だけでなく利用者側の視点も活かしてほしい。
- ・事業数も多く評価できる。3つの新規事業「国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業」「商店街アーケードビジョンづくり支援事業」「まちなか商店街再生プロジェクト推進事業」も立ち上げており評価できる。
- ・「まちなか商店街再生プロジェクト推進事業」に期待している。
- ・概ね良い内容である。
- ・本年度から始まる「トランジットモールビジョン」「アーケードビジョン」に期待しています。これまで積み重ねてきた取り組みを、次のステップに移す大切な事業だと思いますので、関係者の方々の声をテーブルに載せきるつもりで熟議いただき、「まちなか商店街再生プロジェクト推進事業」につなげていただくことを期待したいと思います。
- ・観光客をターゲットとした事業が多いように感じられ、数千万円単位の予算が投じられている割に、地元客の喚起にはつながっていないのではないかと。観光客向けのハリボテの街は、いつかメッキが剥がれるため、やはり地元客が常に利用する質の高い街づくり、コンセプト設計が設定された街づくりへ予算シフトすべきではないか。
- ・中央会と連携した商店街振興組合等の組織強化のための支援策が弱い。

## (7) 前各号に掲げるもののほか、中小企業の振興のため必要と認められる事項

- ・本項目に計上する事業数が多くなっており、事業特性に応じて再度計上項目の検討をお願いしたい。
- ・個別項目に関しては、観光統計の見直しを高く評価したい。観光統計は事業者にとっても貴重な資料となるものであり、那覇市観光協会を通して調査結果周知を図って頂きたい。
- ・新規事業の「那覇市経済産業振興ニュース（仮）」は魅力的な名称検討とHPと連動した展開を期待したい。
- ・経済産業に関するパンフレットは国、県、経済団体等が多数発行しており「特徴ある内容」が必要。
- ・事業数も多く評価できる。「なはし経済産業振興ニュース（仮）」で経済産業振興に関する市民の理解が深まることを期待している。
- ・市内中小企業経営実態調査事業に期待している。
- ・「なはし経済産業振興ニュース」発刊事業に期待している。
- ・概ね良い内容である。
- ・本項は関連施設の運用や人員配置、今後の課題発掘に向けた調査が主となっている

ので今後の動向を期待しております。

- 公設市場や文化テンプス館、観光協会関連予算など、那覇市の観光産業の発展に資する事業費が厚めに計上されているおり、この点が評価できる。
- 那覇市の伝統工芸品のブランド確立は重要なテーマであり、観光振興という点でも今後も予算を多く配分していただきたい。
- 多岐にわたる支援があり、ある程度評価できるが、その成果をどう活かすがはっきりしない。(ハード整備事業は評価しやすいが、ソフト事業の評価基準が不明確で評価しづらい。例えば助成金や補助金事後湯の評価等)